

治療から予防へ。変わりつつある歯科業界に合わせ、高級感のある予防診療ユニットを開発。

事業概要

「患者へのいたわり」「使いやすさ」「メンテナンス性の良さ」「外観の良さ」を備えた予防診療ユニットを試作開発。切削器具をキャビネット内部に収納する構造で、患者（時に子ども）に、より安心感を与える外観に仕上げた。

取り組みの経緯

複合企業体・広沢グループの、自家商品部門が集まる工場内に、日本アイ・エス・ケイのデンタル事業部がある。歯科医療の診療ユニットや訪問診療用のユニットなどを扱っている。

一般的な歯科医院で使われているユニットは、椅子にうがいをするボウルが付き、歯を削る装置がいくつも並び、それを見ただけで痛い治療を想像する人も多い。そこで、歯科治療に対する恐怖感を少なくするために、治療器具を隠して患者に見せないことをコンセプトにした。今までは、虫歯になったら治療に行くという流れだったが、最近の歯科業界は、痛くなる前に予防をしようという動きに変わってきている。このような安心感を与えるユニットがあれば、より気軽に歯科医に行けるだろうという発想だ。事業に取り組むにあたり、患者はもちろん歯科医、そしてグループ会社の歯科衛生士学校でリサーチも行った。歯科メーカーとしては、国内で唯一衛生士学校を併設という強みを、多いに生かしたという訳だ。

事業の具体的内容及び成果

まず、ユニットをデザインするにあたり、3Dプリンタと3DCADを購入。3DCADによる設計で、設計品質の向上、手戻り回数の削減、時間短縮、コストの削減を図った。そし

て設計図を3Dプリンタで具現化することで、図面上ではわからない動きなど、事前に全体のフォルムをつかむことができた。これまで行ってきた手作業に比べ、効率は飛躍的に上がり、今後他事業でも積極的な利用が見込まれる。



▲設計図を元に、3Dプリンタで製作したミニチュアモデル

治療器具を収納したカートテーブルは、患者が横になった時にはじめて扉を開き、治療後には閉めるので、患者は帰るまで一度も器具を見ることはない。一方で、実際に器具を使う歯科医や衛生士が、いかに効率よく作業できるかも大きなポイントである。操作性に優れたパネルスイッチを配置し、なるべくワンタッチで出し入れできる仕様になっている。カートの扉も、診療時に邪魔にならないよう、スライド収納できるようにした。

チェアーには低反発シートを採用、右側のアームレストを可動式にして椅子に乗りやすくしてある。また、ケア処置時、うがい時、歯科医師の説明時など、チェアーは目的に合

日本アイ・エス・ケイ株式会社

〒300-4297 つくば市寺具1395-1

TEL.029-869-2001

FAX.029-869-1291

<http://www.dental-king.com>

資本金：10億9,080万円

従業員数：300人

企業概要

歯科医療機器、小型金庫、ロッカー、書庫などの「健康、安心、ゆとり」をテーマにした商品・製品群を提供し、各界から高い評価と確固たる信頼を得ている。



▲高級感あふれる予防診療ユニット「エリカ Model T」

わけて回転できるので、自然な体制で診察を受けることができる。ユニットは全体的に濃いブラウンを基調とし、天板には人工大理石を採用、高級感のあるユニットが完成した。

事業成果の活用・今後の取り組み

完成したユニットは「エリカ Model T」という名称で商品化、すでに歯科医院でも使用されている。ワンランクアップの治療、患者に高級感とやすらぎをと考えて導入した歯科医院でも、大変満足をしているという。このユニットで治療を受けた患者が、次の診療時にはおしゃれをして来院したというエピソードもある。自由診療である予防歯科は、それなりに費用がかかることを考えれば、患者が喜んで来てくれるというのは、今後患者・歯科医双方のメリットになるだろう。

今後、予防歯科ユニットを、一般歯科用ユニットにも反映して、歯科医院のイメージを変えていきたいという。新しいユニットを開発しながら、通常のユニットも改良をしていく。高級感を求める人と、あくまでも治療重視の人。これから二極化していく時代に、いかに両方を取り込んでいけるかが大きなビジネスにつながると考えている。



▲「エリカ Model T」を導入した歯科医院。まるで美容室のようなオシャレな空間だ

日本アイ・エス・ケイ株式会社

代表取締役社長 曾根 栄二 さん

いろいろな業種・業界で自社ブランドの商品を製造・販売しているが、共通するのは、市場のニーズ、お客様のニーズ、時代のニーズをいかに取り入れられるかであり、開発型の企業として、従来の商品で満足することなく、商品開発が最重要課題として、その繰り返しの考働が大切であると考えている。